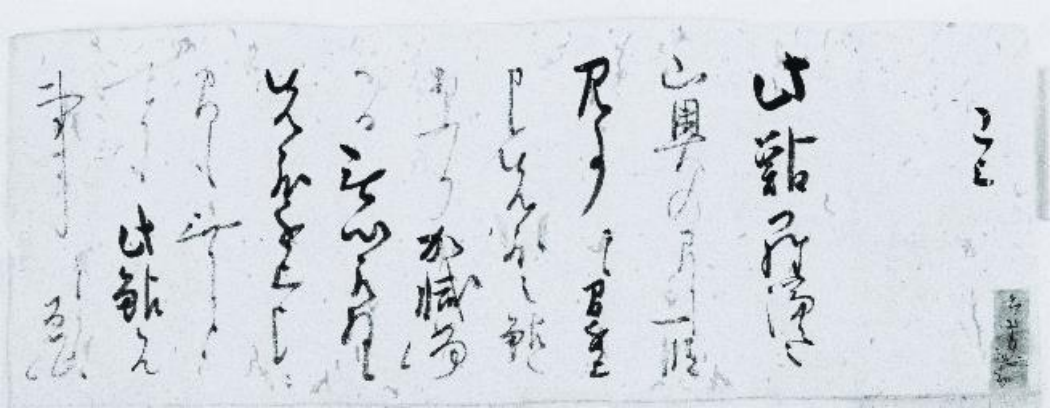
八代市立博物館未来の森ミュージアム解説シート

古文書の中の鮎（あゆ）

羅漢（らかん）の山奥でとれた鮎を進上する

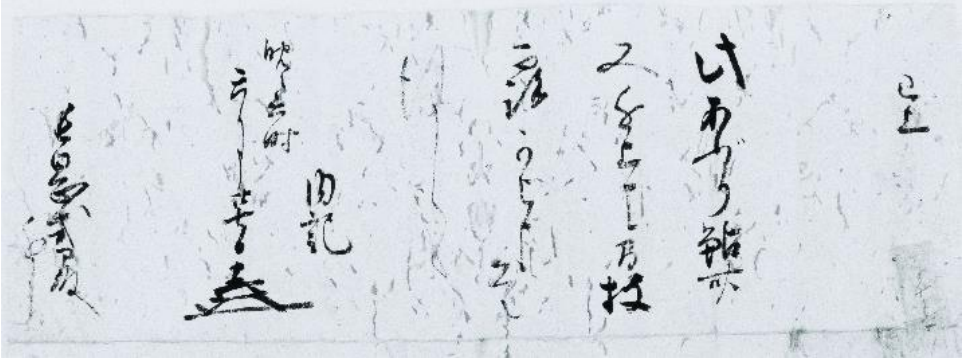
①細川忠利書状　松井興長宛　江戸時代前期(17 世紀)6 月 23 日　松井文庫蔵



細川忠利が家臣の松井興長にあてたもの。羅漢（大分の耶馬渓）でとれた鮎が見事なので進上する旨が記されています。当時、忠利は、豊前中津城(大分県中津市)に居城していました。書中忠利は、先日送った鮎のあぶり加減について気にしており、忠利が興長に度々鮎を送っていたことがわかります。

あぶり鮎を進上する

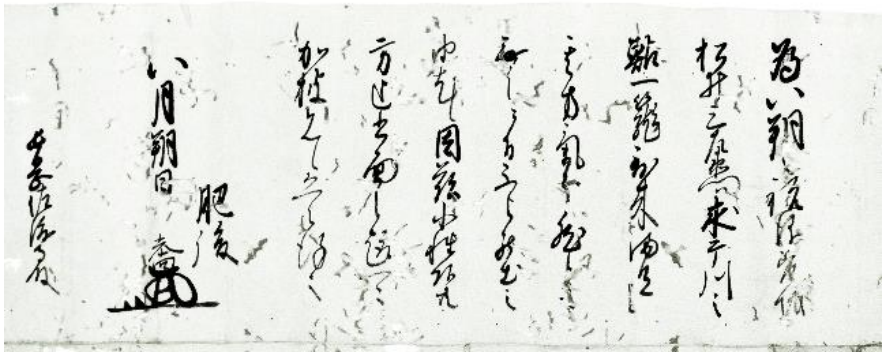
②細川忠利書状　松井興長宛　江戸時代前期(17 世紀)6 月 27 日　松井文庫蔵



豊前中津城主の細川忠利が家臣の松井興長にあてたもの。あぶり鮎を 30 進上するので、披露するよう記されています。

球磨川の鮎、ありがとう

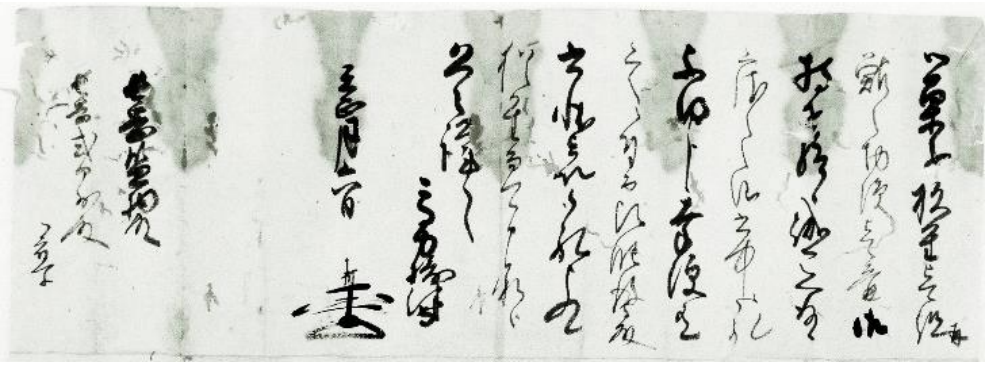
③細川光尚書状　松井興長宛　江戸時代前期(17 世紀)8 月 1 日　松井文庫蔵



熊本藩主の細川光尚が家臣で八代城主の松井興長にあてたもの。球磨川の鮎一籠をもらった御礼が述べられています。この書状によって、球磨川でとれた鮎が、藩主に献上されていたことがわかります。

鮎の切漬、ありがとう

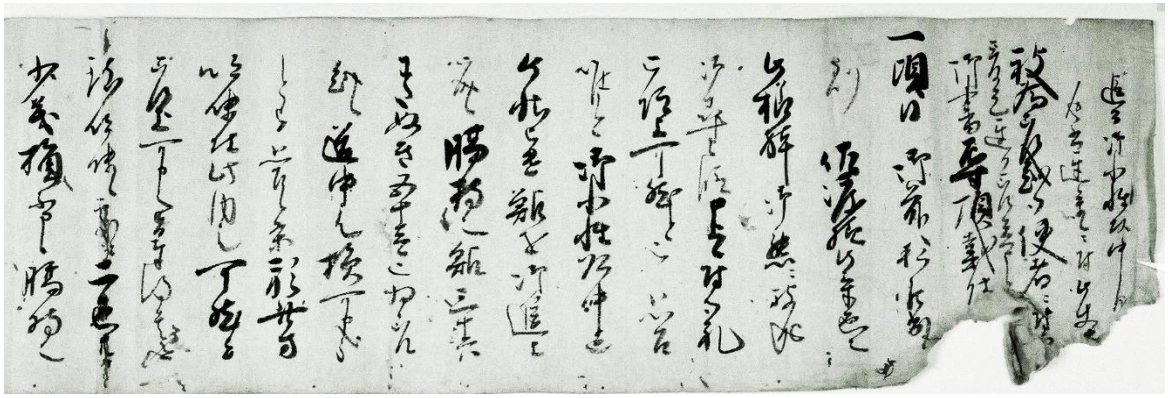
④高力忠房書状　米田是季・松井寄之宛　江戸時代前期　慶安元年(1648)　閏1月6日　松井文庫蔵



島原藩主の高力忠房が熊本藩家老にあてたもの。鮎の切漬を一壺もらった御礼が述べられています。

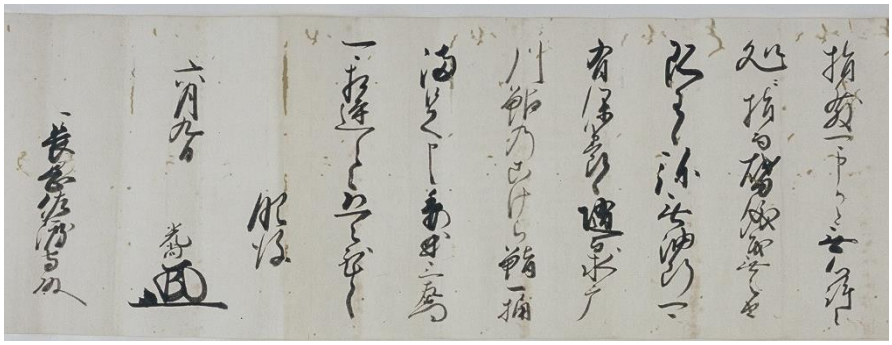
見事なわたもちの鮎を殿様に送る

⑤松井直之書状　井山孫右衛門宛　江戸時代前期　寛文4年(1664)閏5月29日　松井文庫蔵



松井直之が家臣の井山孫右衛門にあてたもの。父松井寄之(八代城主)からわたもちの鮎 36 匹、わたぬきの鮎 51 匹を受け取ったこと、わたもちの鮎は見事だったので、そのまま殿様(熊本藩主)に進上し、満足されたことが記されています。書中に「道中にて損じ申すべきや」と記されるように、八代から熊本に運ぶ間、鮎が痛んでしまうのが心配されました。

鮎鮓(あゆずし)、ありがとう

⑥細川忠興書状　松井興長宛　江戸時代前期(17世紀) 9月28日　松井文庫蔵

豊前小倉藩主の細川忠興が、家臣の松井興長にあてたもの。鮎鮓一桶をもらった御礼が述べられています。鮎鮓は、塩漬けした鮎の腹に飯を詰め、漬け込んで発酵させたもの。いわゆる、「熟(な)れずし」です。